

1 ムッチャン平和像



基本情報

所 在：平和市民公園内 ワンパク広場
 住 所：大分県大分市大字牧七歩22
 (JR牧駅 徒歩7分)
 建 立 者：平和を願う多くの人々
 建 立 年：昭和58年8月12日
 連 絡 先：大分市 総務課 097-537-5602 (直通)

碑 文

【裏】

戦争に父をとられ
 横浜空襲で母、弟にはぐれ
 大分に疎開して胸を病み
 防空壕に一人暮らして
 飢え 渴き 逝った
 少女 ムッチャン
 霊よ 安かれ
 全国の祈りの寄金で建立
 毎日新聞社

可憐な少女が
 父母の愛をうけることなく
 防空壕の中で逝った
 ムッチャンの像に
 私達市民は
 平和を愛し 子供達が
 健やかに育つ大分
 平和よ永遠なれと此の地に誓う
 大分市長 佐藤益美
 昭和五十八年八月十二日

戦禍繰り返さずと
 一粒の善意に相集いしもの
 四海に及び 此処に万筆開く
 その誠意に応え平和の願いを込め
 謹しみて造像す
 制作者 村上炳人
 昭和五十八年八月十二日

説 明 文

この「ムッチャン平和像」は、昭和五十二年に毎日新聞社大阪本社が企画した戦争体験記(終戦三十三回忌の夏)に、京都府宇治市の主婦中尾町子さんが疎開先の大分市で出会った少女「ムッチャン」の思い出の手記を投稿し、それが記事として掲載されたことが建立のきっかけとなりました。

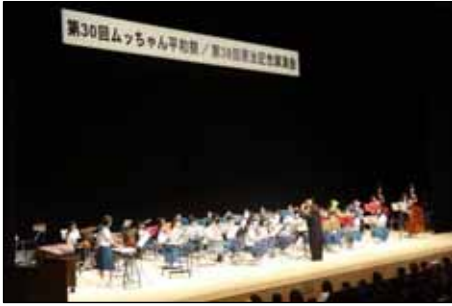
横浜で両親と弟を戦災で亡くし、大分のおばさんを頼って疎開していたムッチャン(当時十二歳)は、結核を患い飢えと孤独の苦しみの中、昭和二十年の終戦直後、西大分駅近くの防空壕の中でひとり寂しく死んでいったという。

この戦争悲話は、全国的な反響を呼ぶこととなり、ムッチャンの記念像建立にと各地から約六百五十万円の寄付金が寄せられ、その平和を願う多くの浄財により、昭和五十八年八月十二日、ここ平和市民公園ワンパク広場に「ムッチャン平和像」(村上炳人)が建立除幕されました。

二度と戦争による悲惨な惨禍を繰り返さないためにも、この平和像建立を機に平和への誓いを新たにするとともに、平和像が恒久平和のシンボルとして皆様に愛され、そして平和の輪がさらに広がることを願っております。

大分市

2 ムッチャン平和祭



※写真提供 大分市

開催概要 (平成25年度)

歳事名：ムッチャン平和祭
 会場：ホルトホール大分(式典) 平和市民公園内 ワンパク広場(夕べ)
 住所：大分県大分市金池南1-5-1 大分県大分市大字牧七歩22
 (JR大分駅 徒歩2分) (JR牧駅 徒歩7分)
 日時：平成25年8月6日(火) ※例年8月上旬開催
 参列者数：約1,000人
 連絡先：ムッチャン平和祭実行委員会事務局(大分市 総務課内) 097-537-5602

式次第 (平成25年度)

1. 記念演奏会…大分市立城東中学校吹奏楽部)
2. 開式
3. ムッチャンの歌合唱…大分市少年少女合唱団)
4. 主催者挨拶…大分市長、ムッチャン平和祭実行委員長
5. 来賓祝辞…大分市議会議長
 ※同日夜、ワンパク広場にて「ムッチャン平和祭夕べ」を開催

挨拶 (平成25年度)

第30回ムッチャン平和祭並びに第38回憲法記念講演会の開催にあたり、ひと言ご挨拶を申し上げます。

本日は大変お忙しい中、板倉永紀市議会議長をはじめ、市議会議員の皆様、各界各層の代表者の皆様、そして多くの市民の皆様のご出席をいただき、盛大に開催できますことに対しまして、主催者の一人として厚くお礼申し上げます。

ご案内のとおり、昭和58年8月に「ムッチャン平和像」が建立され、これを機に始まったこの平和祭も、今年で30回目を迎えることになりました。

現在では、「ムッチャン平和像」は平和を愛するシンボルとして広く市民の皆様に浸透するとともに、「ムッチャン平和祭」は本市の平和事業の中核として、全国的にも非常に高く評価されております。

これもひとえに平和祭実行委員会をはじめとする関係者の皆様のご尽力と市民の皆様のご理解、ご協力の賜と心から感謝申し上げます。

さて、今回のムッチャン平和祭は、会場を先月20日にオープンしたばかりの、ここ「ホルトホール大分」に移しての開催であります。

本市も一昨年、市政施行100周年を迎え、次の100年に向け新しいスタートを切ったところであり、その象徴となるこの「ホルトホール大分」の完成と、ムッチャン平和祭の30周年という節目が重なり、記念となる平和祭が本日ここに開催出来ますことは、大変喜ばしく感じると同時に、100年後の平和な大分市に思いを馳せているところでございます。

また、引き続き行われます「憲法記念講演会」は、毎年、各界から幅広く講師をお招きし、基本的人権の尊重や恒久平和などを基本理念とする日本国憲法の意義について、また、生命の大切さについて、より身近に考えていただく機会となるよう開催してきたものでございます。

今回は、ムッチャン平和祭30周年記念講演会との共催で、長崎市より長崎平和推進協会継承部の山脇佳朗さんをお招きし、「わたしの被爆体験」と題しご講演をしていただきます。

長崎での原爆を実際に体験された山脇さんのお話をお聞きすることは、私達にとって貴重な経験となるとともに、平和の大切さについて改めて考える機会となるものと思っております。

どうぞ、最後までご静聴をお願いいたします。

おわりに、本事業の開催にご尽力くださいました、角山委員長をはじめとする実行委員会の皆様と、本事業の主旨をご理解いただいた市民並びに全国の皆様にご心から感謝を申し上げるとともに平和の輪がさらに大きく広がることを祈念いたしまして、私のあいさつといたします。

平成25年8月6日
 大分市長 釘宮 馨

3 平和の礎



基本情報

所 在：霜凝神社
住 所：大分県大分市大字下郡北2-8-11
(JR牧駅 徒歩20分)
建 立 者：野崎直
建 立 年：平成7年12月
連 絡 先：不明

碑 文

【表】

平和の礎

【台座左側面】

北下郡戦没者
(故人名)

【裏】

この碑は大分市北下郡四組 野崎直氏 (七十八才)
によって建立されたものである
平成七年十二月吉日建之

【台座表面】

- 建設委員
北下郡町内会長 (個人名)
南下郡町内会長 (個人名)
下郡郡 宮総代 (個人名)
南下郡 宮総代 (個人名)
北下郡遺族会
世話人 (個人名)
南下郡遺族会
世話人 (個人名)
霜凝神社
宮司 (個人名)

【台座表】

碑 文

わが国は 昭和六年満州事変に始まり日支事変 そして
昭和十六年十二月八日には太平洋戦争へと突入した 戦争
は次第に激化し下郡地区からも百五十余名の若者が当霜凝
神社から 皆に送られて戦場へと赴いた

当時下郡は戸数僅か二百五十余戸 その中から五十余名
の若者が 祖国の安泰と郷土の繁栄を念じつつ貴い命を捧
げ帰らぬ人となった また米軍機の本土空襲によって下郡
地区にも爆弾・焼夷弾が投下され 無残にも直撃弾を受け
爆死した方も出る等多くの被害を受けた 誠に痛恨の極み
である

昭和二十年八月終戦を迎えたが 戦後五十年を経過した
今日 戦争を知らない世代の増加と 経済発展のもたらす
豊かな生活は この悲惨な戦争体験を忘却させようとして
いる

我々が今日享受する自由で平和な日々は これら戦没者
の貴い犠牲によることを決して忘れてはならない

この平和の礎となられた方々を後世に伝えることは 残
された者の責務と考える

戦後五十年の節目に当り犠牲者の遺徳を偲び 恒久の平
和を希求する証しとして 犠牲者の名前を刻した記念碑を
霜凝神社境内に建立することとした

願わくは この「平和の礎」が永遠の平和と繁栄に役立
つことを念願する次第である

4 戦没学徒慰霊碑



※写真提供 保戸島小学校

基本情報

所 在：津久見市立保戸島小学校・中学校体育館前
 住 所：大分県津久見市保戸島21-2
 (津久見港より定期船にて保戸島港 徒歩10分)
 建 立 者：児童遺族会
 建 立 年：昭和53年7月
 連 絡 先：津久見市立保戸島小学校 0972-87-2002

碑 文

【表】

戦没学徒慰霊碑

【裏】

昭和二十年七月二十五日米軍機

爆撃に会い現地にて殉難

昭和五十三年七月吉日

児童遺族会建之

5 保戸島国民学校戦災殉難者追善法要



開催概要 (平成25年度)

歳事名：保戸島国民学校戦災殉難者追善法要
 会場：海徳寺
 住所：大分県津久見市大字保戸島1465
 (津久見港より定期船にて保戸島港 徒歩2分)
 日時：平成25年度7月25日(木) ※例年7月25日開催
 参列者数：約60人
 連絡先：海徳寺 0972-87-2048

式次第 (平成25年度)

1. 追善法要
2. 読経
3. 表白
4. 読経…参拝者焼香
5. 平和誓いの念仏…参拝者全員

概要

太平洋戦争末期、昭和20年7月25日、大分県北海部郡保戸島国民学校に米空軍グラマン戦闘機3機が突如飛来、無心に勉強に勤む授業中の学舎を直撃、1年生と5年生全員と他学年生数名、教師2名、教師の幼児1名、計127名の尊い命が犠牲となった。

この悲劇は、世界の戦争においてもあまり例の無い、白昼に学舎を襲う残酷無比の無差別爆撃の殺戮であり、この惨禍は全ての生命を否定し人類の滅亡と文明の終焉をもたらすものと強く認識する。

今こそ、私共念仏者は宗祖法然上人の万民平等救済の教えを心にし、犠牲者の霊前に戦争を悔い、世界の平和と人類の福祉増進を誓い、この悲劇を決して風化させぬよう、毎年追善法要を奉修しています。

海徳寺 住職



※写真提供 保戸島小学校

6 小田三郎先生をしのぶ



基本情報

所 在：場谷城址
住 所：大分県速見郡日出町2610-1
(JR場谷駅 徒歩5分)
建 立 者：小田訓導顕彰碑建設委員会
建 立 年：昭和49年7月28日
連 絡 先：日出町観光協会 0977-72-4255

碑 文

【表】

小田三郎先生をしのぶ
場邸書

【裏】

建碑のことは

故小田三郎先生は明治四十二年七月四日安岐町に生れる昭和四年大分県師範学校卒業爾來教職に精進し昭和十三年四月日出尋常高等小学校に転じて七年有半歳至誠一貫教育に専念指導力拔群教え子あげて慈父と仰ぐ不幸にも終戦直前の昭和二十年七月二十八日の空爆により校庭下防空壕の前で御殉職享年三十七才本年三十回忌にあたり先生の御遺徳を讃え御冥福を祈る為教え子知友と共にこの碑を建てる。
昭和四十九年七月二十八日
小田訓導顕彰碑建設委員会